

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901456		
法人名	医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック		
事業所名	医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック グループホームやすらぎの里 B棟		
所在地	旭川市永山4条4丁目9-1		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172901456-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の院長はほぼ毎日ホームに来訪して利用者様の体調の把握に努めている。医師と直接に24時間連絡が可能の為、緊急時には院長、看護師が深夜でも駆けつけてくれる体勢になっているため利用者様、職員共に安心感がある。最期までホームで自分らしくと要望のある方にはターミナルケアも行っている。
町内の方が運営推進会議に参加され、緊急時の連絡網や消防訓練にもご協力いただき体制が整っている。町内会の行事に利用者の方が参加したり、ホームの夏祭りに町内の方の参加があり、地域とのつながりを大切にしている。
定期的に地域の保育園児との交流や中学校の職場体験もある。毎年、秋には保育園児のお遊戯会は入居者様の楽しみのひとつになっている。
日常では回転寿司、ラーメンやソフトクリームを食べに出掛けたりする外出行事もあり、利用者様の楽しみとなっている。友人や家族に電話を掛けたり、職員の付き添いで買い物に出掛けたり、町内会のマージャンサークルに参加されている方もいてホームでの暮らしを楽しまれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年10月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を話し合い、見直した理念を毎朝の申し送り時に唱和して管理者と職員で共有をはかり、理念を業務に活かせるよう努めている。また、新人研修時には必ず理念の説明を行い、全員が理念を理解、周知できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して新年会や敬老会などの町内会の行事に積極的に参加するように努め、施設の夏祭りには町内の方も参加していただいている。また、地域の保育園児との昼食会や運動会、お遊戯会などで交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を設けて町内会や地域の方からの質問や相談にいつでも応じられるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行ない、町内会の方や地域の施設の方、市役所の方、民生委員の方々に参加していただき、活動状況を報告する中で貴重な意見をいただきながらサービス向上に活かしている。新型コロナウイルス予防の観点から今年は会議を中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員に運営推進会議に参加していただきケアサービスの実情を伝え意見を載いている。地域包括支援センター主催の会議に参加して各事業所と情報共有をはかっている。また、行方不明者の緊急連絡網を作り各関係者との協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設けて2ヶ月に1度の職員会議で全職員と話し合い、検討をしている。年2回は外部又は内部研修に参加してもらい、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては防犯上の理由から夜間の施錠を行なうよう指導があり施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けて2ヶ月に1度、職員会議で日常のケアで虐待がないか職員全員で話し合いをして検討して虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は外部研修に参加して全体会議で報告し、職員間で共有、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い疑問や質問に答えながら利用者、ご家族にしっかりと理解していただけるよう努めている。改定などの際は文書で変更内容をお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見書箱を設置したり、面会票の中に意見欄を設けて意見、要望の収集に努めている。また、ご家族が来所された時には近況報告をして意見や助言をいただきケアや運営に反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2が月に1度の職員会議を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。また、必要に応じて個人の意見や提案などを受けたときはユニット毎にカンファレンスを行なうなどして意見や提案を反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員各自が向上心を持って働けるように環境や条件の整備に努めている。給与水準の見直しや研修受講日や休みの希望に応じて休めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や経験に応じて、外部研修に参加する機会を設けて新人職員には認知症の研修を義務付けている。また、働きながら資格取得に向けた研修にも積極的に受講するよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な外部研修や会議に参加することにより、他施設の職員と交流する機会をつくり、お互いの施設の情報交換が持てるようにして自施設のサービス向上に繋がるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面会をして、困っていることや不安なことがないか、要望はないかを聞いて本人が安心出来るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居時に家族から困っていることや不安なことや分からないこと又は要望を聞いて安心してもらえる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、医療機関、介護事業所などから生活状況や既往歴などの情報を事前にいただき、必要としている支援を見極めて他のサービス利用も考えた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ることや出来ないことを見極めて支援するようにしている。また、本人が長年培った技術や知識を会話や日常生活の中で職員が教えられることがあり共に暮らすもの同士として良い関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族からいままでの生活習慣や生活歴を来訪時に聞かせてもらいながら本人の支援に役立て、ホームでの生活状況を職員からお伝えしながら相談や助言をいただいて共に支える関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人、知人の方がいつでも来訪出来るようにしている。本人や家族が希望されて外泊、外出など自由に出来るよう支援しているが、今年はコロナウイルス予防のため感染状態を見極めながらの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるように職員は利用者個々の出来ることや関係性を把握して、利用者が孤立しないように会話を交えたり、行事やイベントを通じて協力し合いながら互いが支えあえる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて管理者やケアマネジャーが家族と連絡を取りあったりして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して全職員がモニタリングやアセスメントを行ない、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。本人から聞きだすことが困難な時は日々の会話や言動・表情から気持ちをくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や契約時に本人や家族から生活習慣や生活環境、認知症になってからの状態など詳しく聞くようにしている。また、居宅のケアマネジャーや相談員からも情報をいただき生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護日誌に一日の過ごし方や心身の状態を記録して職員間で共有して管理日誌で必要事項を申し送り、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護日誌に日々の様子やケアの内容を記録して職員同士が情報共有をはかり、職員それぞれが気づきやケアの改善点などを出し合い、その都度カンファレンスを行い、ケアのあり方や介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌に日々の様子やケア内容を記録して職員間で情報共有している。ケアの変更などは毎日の申し送りで確認出来るようにしている。記録を基にケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や生活変化に応じて生まれるニーズにあわせて、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との定期的な交流や町内会の行事への参加、近所のスーパーへの買い物など楽しく暮らせる工夫をしているが、今年はコロナウイルス予防のために買い物や交流ができなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度、受診をして体調の変化等を本人または家族に報告している。希望があればその都度対応して受診するようにしている。他の医療機関に受診する必要があったときや希望があれば主治医や家族と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度法人の看護師がホームを訪れてくれ、この時に職員が気づいたことや体調の変化などを報告、相談して医療機関への受診や日常のケアに役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるように必要な情報提供をおこない、入院中には定期的に病院関係者や家族と連絡を取りあい、早期退院に向けての情報交換や相談をするように努めている。主治医も入院先を訪れ、病院関係者と良好な関係をつくっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に看取りについての説明をおこない、本人や家族の意向や意思を確認して重症化した場合には終末期に向けて家族、職員、医師、看護師を交えて話し合いをおこない、出来ることを説明しながら方針を共有してチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回救急救命講習(AED、心肺蘇生)を行なって職員は必ず1度は受講するよう義務付けている。また、急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作り、職員間で共有するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤帯と日勤帯の想定で年2回消防避難訓練を行っている。消防設備の方に立ち会ってもらい意見をいただいている。今年は消防署の方、町内の方はコロナウイルス感染防止の観点から参加は見合わせている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声掛けや介助をおこない、誇りやプライバシーを損なわないように配慮した対応を心がけている。また、全体会議の中で日々のケアの振り返りや反省を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが表現しやすいように選択視を2択にして声掛けする等の工夫をして自己決定が出来るような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれにあった声掛けや介助を行い、職員の都合を優先しないように注意しながらケアに努めている。一人一人の希望を聞きながらその人にあったペースで日常生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分で着る服を選んだり、好みの化粧品を使うようになど、選らべるようにしている。その人らしいきちんとした身だしなみで毎日過ごせるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあわせて献立を作り、メニューの話をするなど食事が楽しみになるように工夫している。好みに合わせてメニューの変更を行ったり、食事形態を工夫した対応もしている。食事の準備や片付けも職員と共に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は栄養士が考えているので食事バランスは確保出来ている。一人ひとり食べた量や水分量を確認しながら個々の状態や好みに応じた支援が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを習慣づけ、見守りや一部介助など一人一人の力に応じたケアをしている。毎食後ケアをすることで口腔内の状態を把握することが出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間や回数など介護記録から排尿パターンを把握してトイレでの排泄が出来るよう支援している。これによりパッドの使用回数を減らすことが出来ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の機能訓練時に腸の活動を促す運動を取り入れたり、個々の排便状態を記録して便秘にならないよう食事量や水分量に注意している。飲食物で工夫出来ない方は下剤で調整を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の入浴の希望を確認したり、入るタイミングを合わせるなどして日にちや時間を変更しながら入浴を楽しめるよう支援している。体調によりシャワー浴や清拭で清潔を保つこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて休んでもらい、室温や明るさなど個々に調整しながら対応して安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の用法・用量について職員は把握するようにしている。薬の変更があった場合や症状の変化等は介護日誌や管理日誌に記入して職員全員が把握、情報共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来ることを把握して能力に応じた楽しみごとや役割があるように支援している。日常生活の中で外出や行事を通じて気分転換してもらいながら過ごしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が希望すれば可能な限り出掛けられるように努めている。近所のスーパー、回転寿司、行事など本人の希望を聞きながら外出の機会をつくるように努めている。家族には一緒に外出する機会をつくる協力してもらっている。ただ、今年はコロナ禍のために制限があり、回数は大幅に減少している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方は少ないが、本人がお金を所持したいとの希望があれば家族と相談して所持してもらっている。また、買い物に同行して時も能力に応じた使い方の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば家族や友人にいつでも連絡が出来るようにしている。電話など本人がかけれない時は職員が代わりに掛けたり、手紙の文章と一緒に考えてやり取りの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では居心地良く過ごせるように利用者同士の関係性を考えて席を決めたり、家具の配置に考慮している。利用者が不快に感じないように温度や光、音に配慮し、季節ごとに飾りを変えるなどの工夫に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活の中で気の合う者同士が話をしたり、TVを見たりできるような家具の配置をしている。一人になりたい方には他の方が見えづらい場所に座ってもらうなどの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や写真、小物など本人が使い慣れた物や好みの物を持参してもらい、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっていて、廊下には手すりを配置してトイレや居室に表札・表示でわかりやすい工夫をしながら自立した生活が送れるようにしている。		